

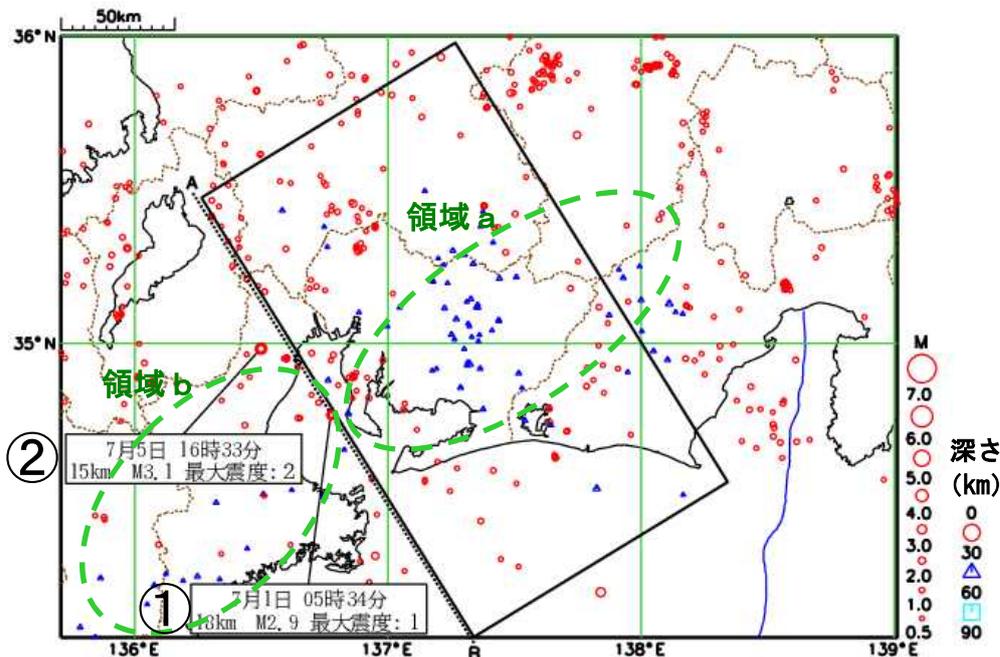
愛知県地震概況

令和4年（2022年）7月

この資料は速報であり、後日の調査で修正することがあります。

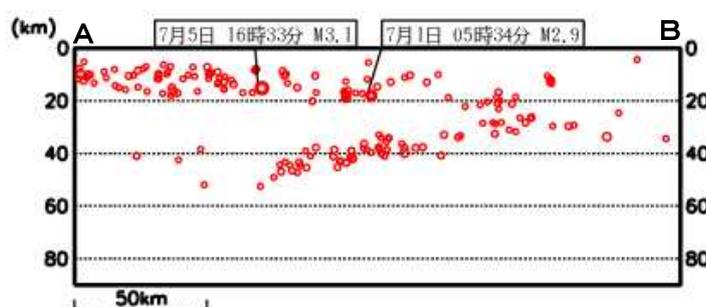
○概況

1. 愛知県内で震度1以上を観測した地震の状況
7月に愛知県内で震度1以上を観測した地震が2回発生しました。
2. 愛知県内や愛知県周辺で発生した主な地震
1日05時34分に伊勢湾でM2.9の地震（最大震度1 深さ18km）が発生しました（下図の番号①）。5日16時33分に三重県北部でM3.1の地震（最大震度1 深さ15km）が発生しました（下図の番号②）。
3. 深部低周波地震の活動状況
 - ・ 東海（領域a）
3～4日
 - ・ 紀伊半島北部（領域b）
5～6日、16日、18～19日、21日、25日



震央分布図 (2022年7月1日～31日 深さ0～90km M≧0.5)

- 深部低周波地震（微動）
深部低周波地震の震央は震源決定精度が高くないため、地震が発生した領域を破線で表示しています。
(注) Mはマグニチュード（地震の規模）の略です。



左の断面図は、震央分布図中の斜めの四角形内の震源を、A-Bに沿って置いたスクリーンに投影する形でプロットしたものです。深さ25km程度までの浅い震源の分布域は、陸側プレートの地殻内の活動によるものです。

○県内で震度 1 以上を観測した地震

伊勢湾（1 頁目震央分布図①）

7 月 1 日 05 時 34 分に伊勢湾で発生した M2.9 の地震（深さ 18km）により愛知県では、南知多町で震度 1 を観測しました（図 1）。この地震は地殻内で発生しました。

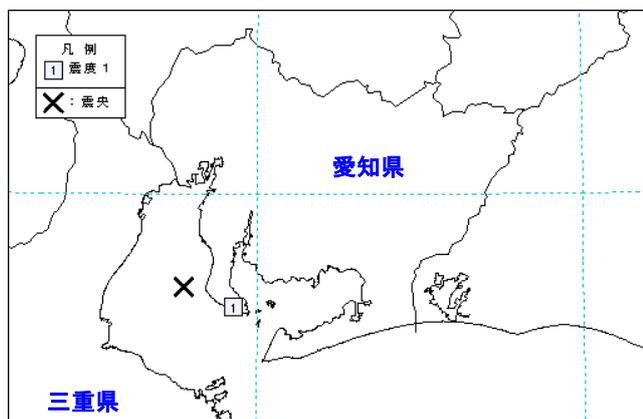


図 1 7 月 1 日 05 時 34 分 M2.9 震度分布図
（×：震央、観測点別）

三重県北部（1 頁目震央分布図②）

7 月 5 日 16 時 33 分に三重県北部で発生した M3.1 の地震（深さ 15km）により三重県で震度 2～1 を観測しました。愛知県では豊田市、知多市、幸田町で震度 1 を観測しました（図 1）。この地震は地殻内で発生しました。

1997 年 10 月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（図 2 領域 a）は、M3.0 以上の地震活動があまりみられない領域です。

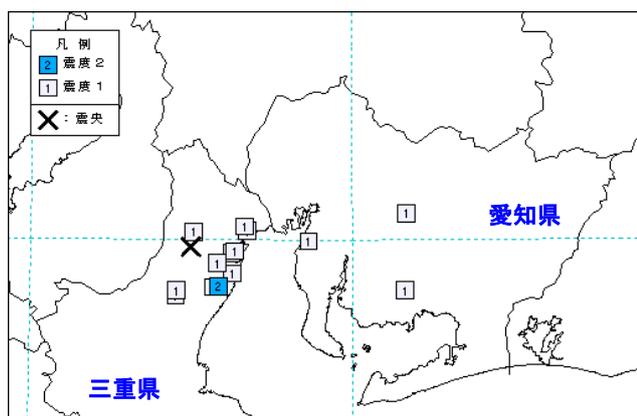


図 1 7 月 5 日 16 時 33 分 M3.1 震度分布図
（観測点別、×：震央）

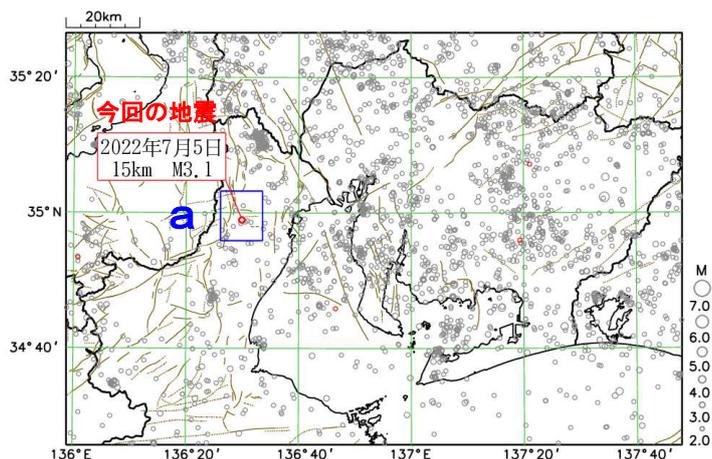


図2 震央分布図
(1997年10月1日～2022年7月31日
深さ0～60km M \geq 2.0)
※2022年7月の地震を赤で表示

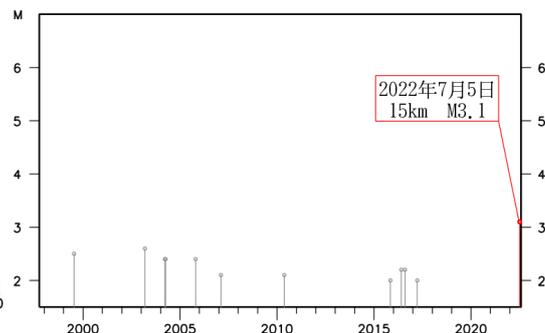


図3 領域a内の地震活動経過図

○震度1以上を観測した地震の表（愛知県）

震源時（年月日時分）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
各地の震度					
2022年07月01日05時34分	伊勢湾	34°45.8' N	136°46.5' E	18km	M2.9
愛知県 震度 1：南知多町豊浜					
2022年07月05日16時33分	三重県北部	34°58.9' N	136°29.8' E	15km	M3.1
愛知県 震度 1：豊田市長興寺*、知多市緑町*、幸田町菱池*					

(注 *印の地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。)

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※本資料中で使用している地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号：平29情使、第798号）。

※地震関係の資料・情報は、名古屋地方気象台のホームページ『<https://www.data.jma.go.jp/nagoya/index.html>』からも随時ご覧になれますので、あわせてご利用下さい。

※2020年9月以降に発生した地震を含む図については、2020年8月以前までに発生した地震のみによる図と比較して、新たな海域観測網観測データの活用等により、震源の位置や決定数に見かけ上の変化がみられることがあります。

※この資料に関する問い合わせ先 名古屋地方気象台地震担当 電話 052-751-5124(平日9-17時)

「防災の日」と「防災週間」

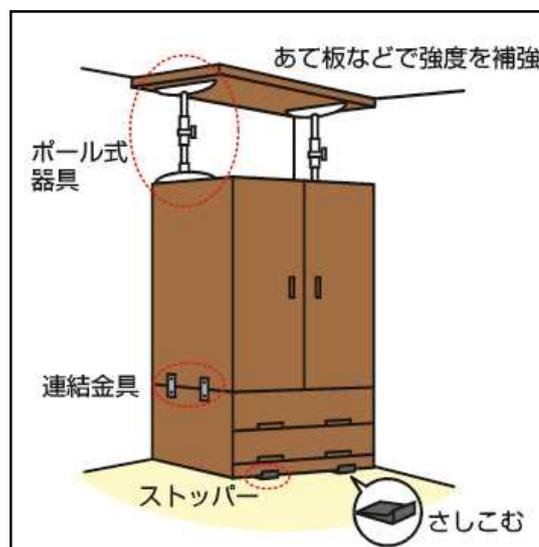
～いつかくる災害に備えて～

毎年、9月1日は「防災の日」、8月30日～9月5日は「防災週間」です。

この期間には、国や防災関係機関をはじめ、広く住民の方が地震、津波等の災害の理解を深め、これに対する備えを充実強化していくため、全国各地で規模の大きな地震を想定した防災訓練等のイベントが開催されます。この機会にこれらのイベントに参加して防災に対する意識を深め、日頃からの備えと規模の大きな地震が起こった時のとるべき行動を確認し、災害にしっかり備えましょう。

◎日頃からの備え

日頃からの地震への備えには、『家具の固定や配置の見直し』、『水や食料・生活用品の備蓄』、『建物の耐震診断や耐震化』などがあります。近年、規模の大きな地震が発生した際には、多くの人々が家具の転倒によりケガなどをしています。右の図を参考に家具を固定しましょう。また、寝室に重い家具を置かないなど、配置にも気を配りましょう。規模の大きな地震が発生した時は、電気・水道・ガスなどのライフラインが停止することがありますので、水や食料品などを備蓄しておきましょう。建物の耐震診断などは市町村の住宅建築窓口へ相談しましょう。



みんなで減災（内閣府パンフレット）より

◎とるべき行動

緊急地震速報を見聞きした場合や地震による強い揺れを感じた時の具体的な行動は、周囲の状況によって異なります。日頃からいざという時の行動を考えておきましょう。

家庭では



- 頭を保護し、丈夫な机の下など安全な場所に避難する。
- あわてて外に飛び出さない。
- 無理に火を消そうとしない。

人が大勢いる施設では



- 施設の係員の指示に従い、落ち着いて行動し、あわてて出口に走り出さない。

屋外（街）では



- ブロック塀の倒壊等に注意する。
- 看板や割れたガラスの落下に注意する。
- 丈夫なビルのそばであれば、ビルの中に避難する。

その他の行動例や緊急地震速報については気象庁のホームページをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/svd/eew/data/nc/koudou/koudou.html>